インターネットがあなたに見せたくないビデオ：ウィルコックとコーリー・グッド（2）

Greatchain
2019/04/27

第一部が、思ったよりよく読まれたようなので、あともう少し追加して訳した。この内容は、先のよりも、度肝を抜かれるものである。SF や映画に出てくるような設定は、ほとんどが事実だと言われるが、その通りであることがわかる。ベンジャミン・フルフォードによる、日本のラジオ放送について、知っていた人はおられるだろうか？　また、Draco と呼ばれる、最も恐ろしい、悪鬼の原型である ET（原ビデオに写真が出ている）が、本当に現実の脅威だとしたら、大変なことである。末尾近くに引用されている、有名なレーガン大統領の発言は、それを言ったものとも取れる。そしてこのレーガン発言が、この部分の要約とも言える。私は（おそらく大多数の読者も）こんな発言に、大した意味があるとは思っていなかった。こんなことが現実であってほしくはないは、その「挑発」（ウィルコック）は受け止めておかねばならないだろう。
————————————————————

コーリー： 大統領は就任演説の後で、いくつかの秘密のメモに署名をして、発達した技術の開放を希望すると表明した。そこには、多くの宇宙計画に関わる高度な技術が含まれていた。我々は、トランプ大統領が、高度な技術があることを承知していることを知っている。なぜなら、彼の叔父がそれに関わった人であり、（ニコラ）テスラの死後、その資料庫に出入りしたからだ。秘密宇宙計画とは離れて、我々は別の「同盟」をもっている。

デイヴィド： 同盟は国際的なグループで、国際連合だ。沢山のさまざまな党派があり、ある件に合意するものもあれば、合意しないものもある。ただ一つ全員が共通しているのは、このエリート陰謀団が滅びて焼かれることだ。彼らは、この者たちが、惑星のほとんどの人を殺しつくして、この絶大な、高度な技術のすべてを支配しようとするのを許さない。同盟はまた、米軍と米情報局共同体の、現在では、驚くべき大多数から成っている。そこで我々が現在、取り組もうとしているのは、遅かれ早かれ、多分早期になると思われるが、政府のあらゆる者が悪いわけではないと思わせる計略である。これは心理作戦の一部であり、映画を通じて、メディアを通じて、あらゆるレベルの社会、すべての機関や制度を通じて、誰一

人としてこの者たちに反対する人々がないようにするために、我々に対する不信を煽っている。

司会者： 一部の人たちは、あなた方には証拠がなくて、これまで長年言ってきたことを、共同で証明することができないではないか、と言っています。これら懐疑をもつ者や否定する者たちに、これが証拠だと言えるようなものがありますか？

コーリー： それについては彼らは正しい。暗黒というよりもっとどす黒い、この政府の計画は、そこに参加する者は誰でも、彼らが辞めるときには、物語のほかは何も証拠が残らないようになっている。ただ、彼らの多くは向精神剤を与えられ、そこにいる間に記憶が少し怪しくなり、それからは、ブランク状態を生ずるような技術を用いられる。だから誰も正常のままでいられる者はなく、そういった計画の本とかマニュアルのようなものもなく、ここに証拠があると言えるものは何もない。それをつくり出す方法もなく、そのヒントも役に立たない。あるのはただ関係者同士の協力だけだ。

司会者： あなた方は、異なったいろいろの地球外人（ET）の問題、どんな種類がいるかについて話すことができますか？

コーリー： ワオ、ヤー、今ようやく政府が報告で、それを認めるようになった。映画 Above Majesticn のような報告では、58 かそこらの種が、我々の地球を訪れていると言っている。そこに 3 種か数種の、主要なグループを加えることができると思う。イーヴン（evens）というのは平和的であまり干渉したりしないグループだ。それからグレイ(greys）がいる。彼らについては、トール・グレイと、ショート・グレイがいるが、ショート（背の低い）の方は、実はアンドロイド、すなわちロボットにすぎず、使われる者たちだ。彼らすべてがそういうことをやっているのだ。それから、もちろん、レプティリアンがいる。我々はそのグループのことを Above Majestic で話した。

それからノルディック（Nordic）がいる。そのノルディック系人が我々に話したところによると、彼らは、異なったあらゆる種類の太陽系（恒星系）から来ており、その種類は一つではないという。しかし我々が最近、発見したことは、これらのグループの少なくとも 1 つは、未来から来た我々だということだ。また他のグループにも、このノルディックのようなグループがある。アフリカ人のような風貌のグループもある。ポリネシア人のようなグループもある。私は、これら地球外人の中には、コーカサス系、すなわちブロンドの髪と青い目の人々は、非常に少ないのではないかと思っている。多くの人々が、我々の宇宙の兄弟の大多数を、local 52 star cluster の肌色の人として描いている。我々の宇宙の兄弟が、現実に我々を訪問して、血縁を結ぶという話になったとき、我々はどうしても、自分の卑しい人種差別

主義者の一面を出すことになる。

以下、この映画からの断片（の一部）：——

デイヴィド： これらのインサイダーが私に教えてくれた話を総合すると、それはこれまでの基本的な議論全体を、完全に覆すものだ。

コーリー （誘拐のされ方について）：あなたの両親が学校で突然、子供を置き去りにする。その日は、他の日と全く変わらなかった。ただその日、あなたは脇へ呼ばれ、今日、野外旅行に出かけることになったと言われた。

ある女性： 私たちは、ネバダ州の砂漠のある施設へ連れていかれた。

コーリー： 私たちがそこに着くと、ある薬品を首のここに注射された（女性の仕草）。私はまったく知らなかった——私が徴兵されたことも、秘密宇宙計画があることも。

ある男性: この惑星上のあらゆる本が、ニセの情報だ。それは、我々の精神を真理から引き離すために計画されたもので、物理学、医学、歴史など、我々の教えられるあらゆるものが誤りだった。

デイヴィド： 証拠は溢れている。フリーエネルギー、タイム・トラベル、秘密宇宙計画…

別の男性： その技術はすでに発見されている。

デイヴィド： 我々は完全に銀河文明に参加するだろう。

別の男性： これは狂気じみた話に聞こえるかもしれない。しかし、そういうことが起こっているのだ。

映画“Above Majestic”について：——

デイヴィド： この映画は人を興奮させ、今、世界で何が本当に起こっているのかに、眼を開かせてくれるものだ。

司会者： これは、敵意をもったエイリアンの脅威が、我々の間にあるのではないかということに関して、宇宙軍 space force への関心を高める、最新の作品です。

デイヴィド： そこで、トランプ大統領が、宇宙軍をつくっていると発言していること、そしてこれが、米軍の新しいブランチになると言っていることは、非常に興味あるポイントだ。そして実は、私の仲間の解説者ベンジャミン・フルフォードが、最近、私に話してくれたところでは、彼が最近、日本のラジオを聞いていたら、ある宇宙軍のための兵士を募集していて、それは、船に乗り組むのと同じことだと言っていたという。こういうことが現在起こっているのだ。したがって、いま我々の間で、実に面白いことが起こっているわけだ。トランプが宇宙軍と言っているのは実のところ何なのか？　これはどういうニュースなのか？　こういったことすべてが、どこへ行こうとしているのか？　これはどういうことなのか？

我々がどこへ導かれようとしているのかについて、私はブリーフィングを受けている。非常に面白いことは、どうやら我々は 1 つの惑星として、ある種の戦争を戦わねばならないらしい、ということだ。なぜなら、私がいろんなインサイダーから聞いているところでは、まさに今、宇宙で、非常に深刻な戦争が起こっているからだ。我々は現実に、高度に悪の存在として、世界の歴史や神話を通じて記録されてきた、地球外存在のあるグループと、対峙しているらしいのだ。

これははるか昔の、古代のヒンドゥーの聖典にまで遡る生物であり、そこでは遺灰の岩石があると言われており、蛇の準人間（snake humanoid）とも呼ばれ、非常に悪人の風貌をもつレプティリアンに似ている。だからこれは目新しい者たちではない。これらの存在は人々の恐怖の中に現れ、サタンや悪鬼の原型になっている。これら垂直の瞳の切れめを持ち、うろこの肌を持つ者たちが、現実にそれに近いものとして存在するのだ。我々の無意識や、より大きな、より高い自己の、ある深い部分は、明らかに、このようなものが存在することを知っている。

我々の目にふれる、異なったすべての他の ET は、さまざまの形で人間に似ている。しかしこの特別の種類は、爬虫類から派生しているが、それは人間の形に進化した爬虫類だった。彼らは我々よりはるかに背が高く、時には 2 倍かそれ以上の高さになり、体重は普通の人間を越えて 3,000 ポンドにまでなり、身長 14 フィート、肩幅 5 フィートにまでなる。これらは非常に嫌な恐ろしい生物である。そして彼らは地球に来たが、明らかに古代史にまで遡って存在し、長い歴史の間には、多くの異なった文化と関わった。

そして彼らは 1930 年後半に、ナチス・ドイツとまで関わった。それはドイツが完全にナチス・ドイツになる前で、第 2 次世界大戦で彼らがやったことを、やる前だった。こうしたことのすべてはフィクションではない。私はあまりにも多くのインサイダーをもっており、彼らは自分の確信を私に証明してみせた。彼らは兵役の正式な文書を私に示し、非常に明瞭に

話し、その多くは記録には残されていないが、彼らは、これらレプティリアン・ヒューマノイドについて話し、これこそ映画“Above Majestic”が、非常にうまく説明し、これらが何者なのか、どこから来たのかを、明らかにしようとしているものなのだ。

私たちはウィリアム・トムキンズの、おそらく数人しか見ていない、珍しいフィルムをもっているが、ここでトムキンズはこのことを話しており、さらに彼らは、第2次大戦中に、29人のアメリカ人のスパイからブリーフィングを受けて、ドイツの秘密宇宙計画に潜入していたのだと話している。そして彼らが、この秘密の施設で、働きながら見ていたものの一つは、これら背の高い、レプティリアンに似たヒューマノイドだった。彼らは明らかに地球外人（ET）で、あらゆる者に向って、ショーをやるにはどうすればよいかを命令していた。暴力的で、誰もかかわりたくない者たち、もし逆らったりすれば、あなたを殺すと思われる者たちだった。それで誰もが、基本的に、奴隷キャンプの中にいるようだった。ところで私がピート・ピーターソンから聞いた話では、あまり遠くない過去において戦争があり、現在、我々地球に住む人間たちが、このDraco（ドレイコー）レプティリアンの支配を、排除しつつあるという。

我々は彼らと戦っている。我々は宇宙で彼らと戦っている。我々は地下で彼らと戦っている。これらは、かつて彼らが持っていた、また今も持っている都市であり、我々が破壊したすべての都市である。我々はいま、我々の技術のレベルを、彼らと対抗できるところまで引き上げた。我々は彼ら自身の領土で彼らと戦うことができる。何千という宇宙船や、何万という兵士を巻き込む戦いは、深刻な戦いだ。そして再び言うが、これらの者たちのほとんどは、切り離された文明の内部に住んでいる。1950年代において、頭脳流出といわれるものがあり、そのとき、非常に多くの人々が惑星から流出し、もはや地球の現実の一部ではなくなった。彼らは帰ってくる手段がなく、（地球の）地下に留まるか、惑星の外に留まるかだ。ある時、彼らは、我々は1980年代に核戦争によって、我々の惑星を一掃してしまった、と聞かされたことがあった。しかし彼らは、たとえ望んだとしても本国に帰ることはできない。この情報があまりにも厳重に統制されているので、その内容が間違っていることを知る方法は、彼らにはない。

だから、自分はこのような世界に住んでいるということを、忘れないでほしい。私が話した人々はインサイダーであり、これは非常に議論の余地のある問題だ。しかし我々の聞いたところでは、我々は現実に、このDracoの脅威にもっと備える必要があるかもしれない、ということだ。そしてこれは、世間一般の人々がこのことを自覚し、この戦争に参加する必要があるということであろう。これは深刻な問題だ。私は、自分が受けているこのブリーフィングを、ねつ造してはいない。私はこれが本当かどうか知らない。しかしこれは確かに挑発的な問題である。

レーガン大統領： 全世界に及ぶ我々の食い違いは、もし我々が外からのエイリアンの脅威に直面するならば、直ちに消えることでしょう。ところで、あなた方に聞きたいことは、エイリアンの武力はすでに、我々の内部に存在するのではないかということです。

ある男性： ものを考える人が犯し得る最大の過ちは、ある特定の歴史の解釈が絶対だと考えることだ。歴史は、一連の観察者によって記録されるが、その中の誰一人として、公平な者はいない。

デイヴィド： ドイツ人たちは月の上に居留地をつくった。彼らは火星にも居留地をもった。そしてこれは 1939 年という早い時期のことだ。

（以上第 2 部、1 時間 26 分ビデオの初めから約 30 分までを訳した）